

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201702		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街東新田		
所在地	静岡県静岡市駿河区東新田4丁目16-2		
自己評価作成日	令和4年7月28日	評価結果市町村受理日	令和4年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2274201702-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2274201702-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和4年8月4日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にあるように、住み慣れた地域でその人らしく、生き生きと楽しくやりがいいを持って働ける環境作りを目指しています。利用者様、職員が一つの家族として一緒に笑う事が出来る「第二の家庭」になっていけると思います。日常的に介護が必要な方が過半数を超えていますが、利用者様が希望される生活が維持出来るように医療機関と密に連携をとり、日々の健康観察・異常の早期発見に努めております。また個々の状態に合わせた食の提案で誤嚥性肺炎の防止に努め、いつまでも美味しく召し上がって頂けるように支援しております。利用者様と共に季節ごとに作り替える「室内装飾」は四季折々で、利用者様も作る楽しみ、見る楽しみで笑顔が見られます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまでは寸劇的な演目を家族を含め定期披露していましたが、コロナ禍で「大きな声は出さない」「マスクは二重に」と、不本意ながらも静かな事業所へと変貌しています。朝は早番が居室やトイレを拭き上げ、噴霧消毒は1時間おきを実施、昼間は「利用者が滑ったらいけない」とカラ拭きのみとし、夜間は次亜塩素酸水を含ませたモップで床磨きと、清掃も手厚いものへと変容しています。道路脇なので排気ガス排除のため窓は閉めたいところですが、日中は10センチ程常時あけ、またオゾンの噴霧器をマックスで24時間稼働させ、週に1回職員は抗原検査をおこなう、との一連のオペレーションを定着させています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝の申し送り時に職員で唱和し基本理念の周知に努めている。	社是、理念は掲示のほか、毎日読み上げています。シルバーカーをつい忘れて歩き出す利用者に「一緒に連れていってあげてね」と声がけをおこなう職員の姿に「安心して暮らせる」の浸透が滲みます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦で関りが薄くなってしまっている中でも、地域清掃活動などを通じ、近隣の方には声をかけて頂いている。行事などの参加は自粛している。	最終週の土曜日に実施する地域清掃は、足腰が比較的しっかりした利用者と職員とで出かけています。草むしりをしていると、「おはよう」「精が出ますね」と声がかかり、挨拶を交わすことに実っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでは地域の方にも参加頂き、施設を知って頂くと同時に認知症の理解を共有する場となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度の運営推進会議はコロナ渦の為思うように開催は出来ていないが、施設現状などを報告し、メンバー様にはアンケートも送付し、様々な感想や意見を頂き、とても貴重な機会だと思っている。	本年第1回目となる5月にはコロナが終息しつつあるように見えたことから参会でできています。書面開催の折りには2ヶ月分のデータや記録を数名の職員でまとめ、アンケートとともにメンバーに配付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のご案内を毎回させて頂き、会議の報告もしている。現在介護相談員の派遣は訪問中止とさせて頂いている。	5月の運営推進会議には市役所にも席に着いてもらっています。地域包括支援センターには利用者の紹介ももらっていますが、事業所が満床のため併設事業所への待機的な入所となるケースが大半です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている。身体拘束適正化委員会を設置し、身体拘束の適正化を常に検討しながら日々ケアを行って。また研修等に参加し職員全員が理解し気が付いた事例等は話し合いの場を設け解決している。	「鈴をつけるのはいかがなものか」などグレーゾーンが幾つかあり、3ヶ月に1度身体拘束排除について話し合うことは、職員の意識維持に大切な機会です。「それがないと危険だね」「でもよくないよね」を重ねることで、「当たり前としない」態勢をつくっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は虐待防止に関する研修を受け虐待防止に努めている。職員同士、言葉や態度、行動をお互いに注意し合えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在この項目に該当する利用者様はいませんが、権利擁護や成年後見人制度についての研修に参加し学ぶ場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様・利用者様本人と面談を行っている。契約時に重要事項・運営規定など説明し、不明点や疑問点などは納得して頂ける様、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会時に利用者様の状況を説明するとともに意見・要望等があれば伺い運営に反映できるように取り組んでいる。	2ヶ月に1度「あいの街便り」をこれまでも発行してきています。それを継続しつつ、コロナ禍の現在は家族に渡す写真を増やして、面会などにおける不十分さを補っています。	以前と比較しますと家族アンケートの枚数が落ちています。コロナでできないではなく、ウイズコロナの体制づくりを進めることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案など言いやすい環境を整えている。また個別に面談を行い職員の意見を聞く機会を設けている。	特に制度や働き方などへの意見は挙がっていません。「飲み込みがわるいよね」「どうしようか?」といった食形態や排泄用品のことを「そうしてみようか」と経過観察につなげることが日常に溶け込んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を含め働きやすい環境整備に努めている。また面談をし職員の状況を把握し、困りごとなどないか等の意見を聞き働きやすい環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に積極的に参加をしている。学んだ事を職員間で共有している。経験の少ない職員には、先輩職員からアドバイスをするようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、同業者との交流の場が持っていないが、当社関連施設の管理者や施設長と意見交換や勉強会を行っている。意見等は職員とも共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を元に利用者様の意向を確認し、安心して生活が出来るよう配慮し、また声掛けで気付いた事など職員間で共有し 支援に反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に困り事や不安・要望などの聞き取りをし信頼関係の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に必ず利用者様と面談しご様子の確認を指せて頂いている。生活歴や生活状況・環境など課題を明確にし、適切な支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事・苦手な事を把握し出来る事は継続できる様職員は見守り、本人が力を発揮できるよう支援をしている。また役割を持つことにより良好な関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月 お便りを家族様に送り利用者様の写真と共に普段のご様子などを伝えている。コロナ渦で居室に入居する事は中止しているが、面会は玄関外で行い、希望されれば家族様と少しの間、散歩に出かけることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通常であればご家族様・友人・知人も気軽に訪ねて来て面会が可能であるが、現在はコロナ渦で自粛をしている。お話が出来る方は、玄関ガラス越しにて電話で対応している。	起床後、珈琲の愛飲が日課の人、ご飯の上に「梅干しなど）なにかのせてもらいたい」とリクエストする人、甘味が大好きで家族から都度差し入れのある人など、その人のこれまでの暮らしがあるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関りが円滑になるように居場所づくりを考えています。フロアでの座席は利用者様本人が安心して日常生活ができ他の利用者様との交流が図れるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援をしている。今までの関わりで得た関係性を大切にしながら必要な時に連絡を頂いている。相互に相談できる関係性を継続できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝える事の出来る利用者様に関しては、出来る範囲で想いに添える様支援している。伝える事が困難な利用者様に関しては、表情や行動・生活歴などで想いをくみ取り支援が出来るよう努めている。	アセスメントシートは入所時のものを更新時に見直し、書き足す方式で取組んでいます。意思疎通が難しい人は表情をよみとって、推測も含み投げかけ、刺激と反応のなかで確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や本人から生活歴や馴染みの暮らし方を把握するようにしている。また会話の中で知り得た情報をキャッチし、それらの情報を元にその人らしく生活が出来るようにケアしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の健康状態の把握の為、バイタルチェック・食事・水分量・排泄確認、体重測定を実施している。個人記録を活用し現状の把握に努めている。定例ミーティング時にケアの見直しの検討をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一カ月に一度の定例ミーティング時にカンファレンスやグループワークで個々利用者様に対する意見を話し合いケアプランに反映している。	階下の小規模多機能事業所と兼務で介護支援専門員(兼計画作成担当者)が介護計画書の作成をおこない、概ね週2日事業所に勤務のうえ、カンファレンスにも参加して「チームでつくる」につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や排泄記録・健康チェック表を活かし情報の共有に努めている。毎朝の申し送りや申し送りノートを活用し、日々の変化の情報など職員全員が共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナの感染状況により中止・再開を繰り返しているが、訪問歯科・訪問マッサージ・訪問理美容のサービスを導入。又可能な限り利用者様・家族様のニーズに答えられるよう多くの社会資源を取り組むように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様一人一人が活用できる地域資源を把握し、生活に必要な資源の活用で楽しむ事が出来るよう支援している。又地域との協働が出来るようにしていく。現在はコロナ禍で自粛をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の継続受診を希望するか、施設の協力医に変更するかの希望を聞き、家族様の希望に添えるようにしている。個々の状態により24時間の医療にも随時変更でき、安心して医療が受けられる支援体制が整っている。	2名が在宅の頃からのかかりつけ医を継続しています。他7名が2つある協力医のどちらかを選んでおり、事業所への訪問診療での受診となっています。協力医はどちらも24時間対応です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を看護師に伝え適切な指示を受け健康管理に努めている。些細な変化も見逃さないよう日々の情報を職員と看護師が共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に、普段の状態報告を細かく申し送るようにしている。現在は面会が出来ない為、定期的に病院と連絡を取り状態の把握をしている。退院時にも病院の相談員や看護師と連絡を取り、施設での生活にスムーズに移れる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様・ご家族様に「看取りの指針」を伝え、終末期の過ごし方の希望を聞いている。実際に終末期を迎えられた時に、再度ご家族・医師・職員と面談をし看取りの取り組みをしている。	本年6月にはコロナ禍における看取りを体験しています。「出入り口の取扱い」とか「家族の宿泊をどうするか」といった課題を一つひとつ解決して、無事お見送りを終えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を施設に掲示し、迅速に連絡が出来るようにしている。また勉強会で急変時や事故発生時の対応の仕方を研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場で地域代表・包括・相談員等に災害時の協力体制や地域の防災訓練にも参加し地域と共有できるようにしている。定期的に防災訓練を実施し、災害時の対応を身につけている。	これまでは階下の事業所と合同実施でしたが、「コロナ禍で大勢はいかがいのか」と別々となり、夜間対応を重点的におこなっています。他にもDVD視聴や軽微な避難と、こまめにミニ訓練を重ねています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った声掛けをしている。出来ない事や失敗があっても自尊心を傷つけない様対応している。常に受容・傾聴・共感を心がけるよう努めている。	職員の勤務が長く、利用者の重度化(本人の意思が明確でない)も重なり、日常の中で馴れ合いが見え隠れしていることは否めませんが、トイレや入浴でのマナーなど基本的なことはできています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様がいつでも希望や思いを伝えられる声掛けをし、自己決定が出来る働き方をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の性格・生活リズムを理解し、それぞれのペースに合わせた声掛けをし、その人らしい過ごし方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の気持ちを尊重し、身だしなみやおしゃれができるように対応している。2ヶ月に1度、訪問理美容のサービスを導入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に家族様から利用者様の嗜好の聞き取りをしている。誕生日会には好物をお出ししたり、日々の会話の中で今何を食べたいか、何が好きなどの聞き取りをし、利用者様が食事を楽しむ為のヒントにしている。	ワンクックと呼ぶ、少し手を加える副菜が1品あり、ご飯と汁物は職員がつくり、また主菜ともう1品の副菜はレトルトで届いています。また義歯と相性がよくない人もおり、ゼリーやペーストで補完しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量は日々の記録に記入し、把握している。個々の状態に合わせて食事形態を変更したり、禁止食材の確認を行い、適切で安全な食事の提供をしている。また旬の食材も時々提供をし季節を味わって頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを習慣にしている。義歯の方は夜間預かり消毒洗浄をしている。歯のない方もスポンジで口腔内の清拭をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけており、個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導やトイレの声掛けを行っている。介助の必要な方は羞恥心に配慮しながらお手伝いし、清潔が保てるように支援をしている。	平均介護度が3.8、日中3名がベッド上の交換、夜間ベッド上でのパット交換は6名、車いす5名と重度化適進中ですが、どちらかというと羞恥心で汚染物を隠してしまうといった行為に難儀しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬による排便コントロールをしている方が多く排泄チェック表を確認しながら主治医に相談し、薬の調整をしている。毎日の体操や歩行訓練で体を動かし水分摂取にも注意しながら便秘解消に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表はあるが、本人のペースや体調に考慮し入浴を行っている。拒否のある方には声掛けに注意をし、スムーズに入浴が出来た場合の情報共有をしている。また一人で入浴困難な方は安心して入浴できるよう2人対応で介助している。	週2日の入浴は、2名が浴槽で湯に浸かる喜びを味わっています。他7名は浴槽をまたげなくなり、シャワー浴ですが、夏でも浴剤を混ぜた足浴で色とか香りを愉しんでもらえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで過ごしている。個々により就寝時間が違うのでその方に合わせて適宜声掛けを行い、夜間の睡眠に支障が無いように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット時のチェック・服薬ミス・服薬後の袋のチェックなど、飲み忘れや誤薬が起こらない様にチェック体制を強化している。薬の変更があった場合は必ず申し送りノートに記入をし、職員全員が周知をしている。また内服薬一覧表を用意し利用者様の内服薬がわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割を持つ事は利用者様自身の自信や喜びに繋がると考えている。洗濯・掃除・片付けなど、個々の出来る範囲で行って頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが落ち着いた時期は、施設周辺の散歩や、季節を感じて貰えるようにドライブなどを企画した。ご家族が見えて車イスを押し近隣を散歩される事もあった。	散歩は朝の早い時間帯を活用して(暑いので)、5名の車いす利用の人たちも交替で戸外の新鮮な空気に触れています。また不穩になりがちな人はゴミ捨てを兼ねて毎日とし、本人の安寧につなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金に関しては会社の方針もあり、トラブル防止の為に持ち頂かない様にお願いをしている。所持が必要な場合は、別途ご相談させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙などはご本人の意思に任せている。利用者様から「電話が掛けたい」と希望があった場合はご家族様に連絡し状況を確認し取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除し、清潔保持をしている。手すりやノブなども消毒をし、室内換気も定期的に行っている。いつも目にする壁には、季節を感じて貰える作品を利用者様と一緒に作成し飾っている。	職員はマスク2枚使用で、「大きい声は出さない」を徹底しているため、最近はソングレクもあまりやっていません。近隣の散歩のみならず事業所内でも利用者はマスク着装、リビングにはアクリルパネル設置で、衛生第一の環境をつくっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自由にテレビを観たり談笑できるよう、フローアの片隅にソファを設置し、ゆったりと過ごす時間を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物や大切にしていた物などを持ってきて頂き、本人が安心して生活できるように工夫している。家族のお位牌を置いている方もいる。	大半の人がプラスチックの衣装ケースが主な持ち物で、ベッド以外に大きなインテリアがある部屋はありませんが、協力医が干支のオブジェを毎年各人にプレゼントくださるので、どの居室にも同じものがあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。廊下・トイレ・浴室には手すりも設置してある。ご自分で出来る事は安全に出来るように支援している。		